

平成22年度競技力向上スポーツ指定校事業指定校（案）

	学校名	男子	女子
1	城東		バドミントン
2	城南	テニス	
3			バレーボール
4	城北		バスケットボール
5	城ノ内	陸上競技	
6			弓道
7	徳島市立	サッカー	
8	徳島科学技術	ソフトテニス	
9		ソフトボール	
10	徳島商業		卓球
11	小松島西		陸上競技(駅伝)
12	富岡東		バスケットボール
13			剣道
14	阿南工業	ホッケー	
15	海部	バスケットボール	
16	鳴門		陸上競技
17	鳴門市立工業	硬式野球	
18	阿波	柔道	
19	穴吹	レスリング	
20	脇町		ソフトテニス
21	美馬商業	陸上競技(駅伝)	
22	貞光工業	ラグビーフットボール	
23	辻		ソフトボール
24	池田		弓道

平成21年度競技力向上スポーツ指定校事業指定校

	学校名	男子	女子
1	城東		バドミントン
2	城南	テニス	
3			バレーボール
4	城北		バスケットボール
5	城ノ内	陸上競技	
6	徳島市立	サッカー	
7	徳島工業	ソフトテニス	
8	徳島東工業	ソフトボール	
9	徳島商業	サッカー	
10			卓球
11	小松島西		陸上競技(駅伝)
12	富岡東		バスケットボール
13			剣道
14	阿南工業	ホッケー	
15	海部	バスケットボール	
16	鳴門		陸上競技
17	鳴門市立工業	硬式野球	
18	阿波	柔道	
19	穴吹	レスリング	
20	脇町		ソフトテニス
21	美馬商業	陸上競技(駅伝)	
22	貞光工業	ラグビーフットボール	
23	辻		ソフトボール

「競技力向上スポーツ指定校事業」評価実施要領

(趣旨)

第1 競技力向上スポーツ指定校事業について、効果的な実施と客観性を確保するために毎年、県組織以外の第三者によって構成する評価委員会を開催し、指定された各校各部の取組や成果を検証し評価を行い、課題のある部に対しては取組の改善についての指導を行いながら、学校との十分な連携によって、本県競技スポーツの基盤強化を行う。

(外部評価委員会の設置)

第2 競技力向上スポーツ指定校の取組の評価を行うため、学校教育や競技力向上に専門的知識を有する者、学識経験を有する者等の委員で構成する「競技力向上スポーツ指定校事業評価委員会」(以下「評価委員会」という。)を設置する。

1 構成及び任期

- (1) 評価委員会は、7名で構成し、委員は、教育長が委嘱する。
- (2) 委員の任期は、1年とする。ただし、再任を妨げない。

2 役員

- (1) 委員会に委員長をおく。
- (2) 委員長は、委員の互選とする。

3 運営

評価委員会は、委員長が議長となり、取りまとめることとする。

4 庶務

評価委員会の庶務は、徳島県教育委員会体育健康課において処理する。

(評価)

第3 評価委員会では、次の項目について評価を行うとともに、それらを踏まえて総合評価を行う。

- ① 強化活動及びその効果
- ② 主な大会での成績と分析
- ③ 選手の確保
- ④ 学校の支援

(評価結果の取り扱い)

第4 委員長は、評価の結果について取りまとめ、教育長へ報告・提言を行う。

課題のある部については、改善についての指導・助言を行う。また、本事業の指定にふさわしくない部については、指定の取り消しを行うこともある。

附則 この要領は、平成19年4月1日から施行する。

この要領は、平成20年4月1日から施行する。

平成21年度競技力向上スポーツ指定校事業評価委員会委員名簿

(敬称略)

No.	役職	氏名	(所属・職名等)	専門
1	委員	丸與健一	徳島県中学校体育連盟副会長	⑤
2	委員	宇山孝人	(財)徳島県体育協会専務理事	⑦
3	委員	小原 繁	徳島大学教授	①
4	委員	川人知恵子	徳島県女子体育連盟副会長	⑥
5	委員	長瀬照明	(社)徳島新聞社運動部長	③
6	委員	バンデワール 泰広	四国放送(株)ラジオ局 編成制作部副部長	④
7	委員	松井敦典	鳴門教育大学准教授	②

委員選出の要件（専門分野）

- ① 運動生理学・運動生理学研究
- ② スポーツ医科学委員
- ③ マスコミ関係者
- ④ 実績のある指導者・活躍した競技者
- ⑤ 徳島県中学校体育連盟
- ⑥ 徳島県女子体育連盟
- ⑦ 徳島県体育協会

競技力向上スポーツ指定校事業実施要項

1 目的

近年の少子化に伴う生徒数の減少により、高校運動部の部員不足が大きな課題となっている。また、各校に優秀選手が分散し、競技力が平準化してきており、全国大会で優秀な成績が収められなくなっている。

そこで、有力選手を特定の学校に集中させ、指導者を的確に配置し、遠征・合宿等の強化活動費の一部を助成することによって、全国高等学校総合体育大会や国民体育大会等での活躍が期待できる競技力向上スポーツ指定校をつくる。

また、各校が指定校を目標に活動を行うことによって、その競技力が高まり、県下の高校スポーツ全体の競技力の向上を図る。

2 事業内容

(1) 指定校に対する支援

ア 遠征・合宿、強化練習会、指導者招聘、有力チーム招待等の強化活動を対象に活動費の一部を助成する。

イ 指導者（教員）の適正配置と実習助手の採用・配置に努める。

(2) 指定方法及び期間

各学校から提出された指定申請書及び各校からのプレゼンテーションを基に、学校教育に専門的な知識を有する者や学識経験者で構成する選考委員会において選考を行い、県教育委員会が指定する。

指定期間は5年間とし、当該期間内に、取り消しすることもある。

(3) 指定校数

1 競技男女それぞれ2校以内とし、総数20部程度とする。

3 指定基準

次の項目すべてに該当していること。

(1) 的確な強化計画が立てられており、競技力向上が図られ、将来的に全国大会等での活躍が期待できる。

(2) 競技力に優れた中学生を確保するための有効な取り組み、計画が立てられている。

(3) 当該部活動を支援する学校の体制が整っている。

4 事業費

強化に必要な経費については、予算の範囲内で助成する。

「競技力向上スポーツ指定校事業」
評価報告書

平成21年度第2回
競技力向上スポーツ指定校事業評価委員会

全国大会等での活躍が期待できる高校運動部を育てるため、平成18年度に開始した「競技力向上スポーツ指定校事業」も、4年を終了し、間もなく最終年度を迎えることになりました。

本事業について、「競技力向上スポーツ指定校事業評価要領」に基づき、県関係者以外の第三者の客観的な視点から評価するよう委嘱を受け、3月4日に「評価委員会」を開催し、各指定校の活動の評価及び指定校に追加申請のあった学校に対する審査を行いました。

評価委員会では、あらかじめ、各校から、昨年度の活動報告書の提出を受け、その内容をもとに各部顧問との質疑応答を行った後、審議を行い、評価結果を取りまとめました。

各校の取組は、おおむね順調であり、平成21年度全国高等学校総合体育大会では、徳島科学技術高等学校男子ソフトボール部が準優勝を果たすなど、全体的な競技成績は確実に向上しています。

また、追加選考については、学校から提出された指定申請書に基づいて、質疑応答を行った後、指定校の追加について審議を行いました。

各校におかれましては、課題として指摘された事項について十分に検討していただき、全国大会等で上位入賞できる部を育成するという事業の目的を達成するために、一層の競技力向上を図るとともに、より効果的な活動が実現できますよう、強力な取組をお願いいたします。

御協力いただいた指定校の顧問はじめ関係の方々に、深く感謝申し上げますとともに、事業最終年度の指定校の活躍が、高校運動部活動全体の活性化と競技力向上につながり、さらには、それらが基盤となって徳島県の体育スポーツが活気に満ちたものになるよう期待いたします。

徳島県教育委員会教育長 殿

平成22年3月11日

競技力向上スポーツ指定校事業評価委員会
委員長 小原 繁

1 評価結果

平成21年度に、競技力向上スポーツ指定校において実施された、強化活動の取組や選手の確保、学校の支援の状況は、おおむね適切であると認められ、評価委員会に出席した指定校19校、22部については、指定を継続することが適当であると評価する。

競技成績については、全国高等学校総合体育大会での団体競技の4位以内入賞が、平成20・21年度に連続して出るなど、あと一歩8位以内入賞に届かなかったチーム数を含めて、全国大会での上位成績が増加している。また、四国大会では、6校が優勝し、競技力向上スポーツ指定校の成績は上昇傾向が顕著である。全国大会で活躍できる部を育成するという事業目的を達成するために、各校各部において、より一層の強力な取組を期待する。

事業効果を広く徳島県高校スポーツの振興に生かしていくためには、指定校が課題として指摘のあった事項の解決に努めるとともに、各校各部の特徴をさらに生かすことによって、学校単位の競技力を高めていくことはもちろん、中学校や地域との連携を推進し、指定校以外の部を含めた中核となって活動を広げていくことが重要である。

平成21年度の競技成績の詳細については、全国高校総合体育大会で、徳島科学技術高校男子ソフトボール部が準優勝、城東高校女子バドミントン部と城南高校男子テニス部がベスト16と、全国上位の実力をつけてきた。2回戦で惜しくも敗れたチームも5部あり、団体競技の上位進出が増えている。

評価委員会では、平成19年度から平成21年度の3年間の全国大会（全国高校総合体育大会及び全国選抜優勝大会、またはそれらに準じる大会）における競技成績によって、平成22年度の指定を3段階にすることが望ましいと判断し、次のように設定した。

○S指定（7部）

（上記大会で8位以内入賞、またはベスト16に複数回進出した部）

城東高校女子バドミントン部、城南高校男子テニス部

徳島科学技術高校男子ソフトボール部

富岡東高校女子バスケットボール部、富岡東高校女子剣道部

脇町高校女子ソフトテニス部、辻高校女子ソフトボール部

○A指定（13部）

（上記大会に出場した部）

城南高校女子バレーボール部、城北高校女子バスケットボール部

城ノ内高校男子陸上競技部、徳島科学技術高校男子ソフトテニス部

徳島商業高校女子卓球部、阿南工業高校男子ホッケー部

海部高校男子バスケットボール部、鳴門高校女子陸上競技部

阿波高校男子柔道部、穴吹高校レスリング部

美馬商業高校男子陸上競技（駅伝）部

貞光工業高校ラグビーフットボール部

鳴門工業高校硬式野球部

○B指定（2部）

（上記大会に出場していない部）

小松島西高校女子陸上競技（駅伝）部

徳島市立高校男子サッカー部

なお、A・B指定の各部が上位の指定基準を満たした場合には、指定を変更することとする。

学校の特色を生かした活動の中では、脇町高校女子ソフトテニス部が、美馬市や市内の総合型地域スポーツクラブと連携して活動を広げていることが、ソフトテニスの競技振興や競技人口の拡大につながっており、同時に、学校は強化のための強力な支援を地域から獲得している。

同様に、県民スポーツ課が進める「中高連携ゾーンの構築」に各校が取り組んでおり、各校各部が進める活動が、それぞれの地域に広がりつつある。

優秀選手の獲得については、学校により事情が違ってきているが、本事業開始後には、一部の競技種目を除いては、中学生の県外流出が減少しており、全体として、事業効果が認められる。また、指定校在学中や卒業後に実力が認められ、日本選抜メンバーに選出される選手も複数出てきており、県民に夢を与えるような今後の活躍を期待したい。

学校の支援に関しては、各校において、部活動の内容はもちろんのこと、学習の充実や進路指導、生徒・生活指導など教職員の理解が必要であるが、特に、練習場所や練習時間の確保では、限られた条件を最大限に生かすことにより、より快適な練習環境を獲得できるように努力している。

一方、委員からは、各校から提出された活動報告書において、活動の分析の詳細について記載が不足していることがあり、記載方法を工夫することにより、評価委員として、時間的な制約がある中でも、評価や助言・指導をよりの確に行いたいという意見が出された。例えば、一つ一つの遠征や合宿のねらいや個々の傷病の対応などを明らかにしていくことが、強化をより効率的・効果的に進めていく上では極めて重要である。

2 追加選考結果

第64回国民体育大会（トキめき新潟国体）弓道競技において、少年女子は遠的で優勝するなど顕著な成績をあげた。

県教育委員会では、関係する3校3部に、弓道女子の平成22年度競技力向上スポーツ指定校として、追加申請を行うように案内し、申請のあった2校2部について、審査及び選考を行った。

その結果、次の部を平成22年度競技力向上スポーツ指定校とすることが適当であると判断した。

○A指定（2部）

城ノ内高校女子弓道部

池田高校女子弓道部

1及び2の結果、平成22年度競技力向上スポーツ指定校は、20校24部となる。

3 競技力向上スポーツ指定校事業の在り方についての意見

本事業は5年で終了するとされているが、平成23年度以降の事業の在り方を早期に示すことが必要である。

この度、平成21年度競技力向上スポーツ指定校であった徳島商業高校男子サッカー部が、部員に万引き行為があったことから、来年度の指定校を辞退することになった。

競技力向上スポーツ指定校事業は、競技力向上を目標とする事業ではあるが、指定校や指定部、所属している部員一人一人が競技会において優秀な成績をあげるとともに、県内高校スポーツを牽引していく立場にあることに疑いの余地はない。

今回の事案の発生は、誠に残念なことであるが、徳島商業高校男子サッカー部には、厳しく反省してもらい、一日も早く立ち直り、競技力向上の現場に復帰してくれることを希望する。

また、平成22年度競技力向上スポーツ指定校20校24部には、各部の活動を今一度点検していただき、高校生としての生活全般に対する姿勢を日々正しながら、真摯な態度で競技に励んでいただくように希望する。

以上